

# 大日本スクリーン製造株式会社 2014年3月期 第3四半期 決算説明会

2014年2月4日

専務取締役 CFO 領内 修

## 本日のアジェンダ

- ・ 2014年3月期 第3四半期 連結業績
- ・ 事業状況
- ・ 今後の取り組み
- ・ 2014年3月期 連結業績予想

### 資料取り扱以上の注意

- ・ 本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

本日の決算説明会の内容：

- ・ 2014年3月期 第3四半期 連結業績結果
- ・ 各事業の状況
- ・ 今後の取り組み
- ・ 2014年3月期 連結業績予想

2014年3月期 第3四半期  
連結業績

(単位：億円)	2013/3期					2014/3期				前年 同期比 累計
	実績(据付完了基準)					実績(据付完了基準)				
	1Q	2Q	3Q	累計	4Q	1Q	2Q	3Q	累計	
売上高	666	428	348	1,443	554	593	518	521	1,632	188
SE	516	280	235	1,033	373	433	323	367	1,124	91
FE	48	20	20	89	30	41	68	33	143	53
MP	99	125	90	315	147	116	124	117	358	42
印刷関連機器 (MT)	89	107	81	278	123	100	104	101	307	28
プリント基板関連機器 (PE)	10	18	9	37	23	15	19	16	51	13
その他(外部売上のみ)	1	1	1	4	2	1	2	2	6	1
営業利益	31	▲44	▲48	▲60	12	22	8	15	45	106
SE	36	▲44	▲31	▲39	1	21	7	18	47	86
FE	2	▲5	▲5	▲8	▲0	1	▲1	▲2	▲2	5
MP	▲3	10	▲6	0	14	4	5	4	15	14
その他および調整額	▲4	▲4	▲4	▲13	▲3	▲4	▲4	▲5	▲14	▲1
経常利益	33	▲47	▲52	▲66	16	22	3	14	40	107
当期(四半期) 純利益	20	▲89	▲53	▲122	9	16	▲1	6	22	144

\*SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレシジョンテクノロジー事業を示す。  
\*2013年3月期のSE、FEは据付完了基準を遡及適用して記載しています。

### 2014年3月期 第3四半期累計業績（前第3四半期累計との比較）

売上高：1,632億円      営業利益：45億円  
経常利益：40億円      四半期当期純利益：22億円

#### ■売上高：前年同期比188億円増加（+13.1%）

- ・大手ロジックメーカーの投資は減少したが、ファンドリー、メモリーが増加
- ・中国での投資増加によりFEは増加
- ・円安で推移する中、PODの増加によりMPも増加

#### ■営業利益：前年同期比106億円改善

- ・収益改善に向けた変動費削減や緊急対応策による固定費圧縮などによる
- ・特にSEは、売上高91億円増加に対して、営業利益は86億円改善

#### ■経常利益：前年同期比107億円改善

#### ■四半期純利益：前年同期比144億円改善

- ・繰延税金資産の取り崩しが発生した前年同期に比べ、大幅改善

\*SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレシジョンテクノロジー事業を示す

**売上高** 3Q実績 521億円・2Q 518億円 (2Q比：2億円増加)

(単位：億円)

セグメント	3Q実績	2Q実績	差額	差異のポイント
SE	367	323	44	コーターデベロッパー、洗浄装置（バッチ式、枚葉式）ともに増加 地域別では、北米は減少したが、台湾が大幅に増加
FE	33	68	▲34	中国向けを中心におおむね計画通り進捗
MP	117	124	▲6	
MT	101	104	▲3	CTPは減少したが、PODは増加、インクも堅調に推移 国内が季節要因で減少
PE	16	19	▲3	直接描画装置は国内で減少したが、韓国は堅調

**営業利益** 3Q実績 15億円・2Q 8億円 (2Q比：7億円増加)

(単位：億円)

セグメント	3Q実績	2Q実績	差額	差異のポイント
SE	18	7	10	プロダクトミックスの影響はあるものの、売上増加により限界利益増加
FE	▲2	▲1	▲1	売上減少による限界利益が減少したが、工場操業度の上昇影響により一部オフセット
MP	4	5	▲1	売上減少による限界利益が減少したが、4Q売上に向け工場操業度の上昇影響により一部オフセット

DAINIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

3

### 第3四半期の各セグメント別状況（第2四半期との四半期比較）

#### ■SEセグメント：

売上高：367億円（第2四半期比44億円増加）

ファンドリーが大幅に増加

製品別は、コーターデベロッパーは増加。洗浄装置も増加

営業利益：18億円（第2四半期比10億円増加）

プロダクトミックスの影響により変動費率は上昇したが、

売上増加により営業利益は増加

#### ■FEセグメント：

売上高：33億円（第2四半期比34億円減少）

国内および中国、韓国、台湾向け売上が減少

営業利益：▲2億円（第2四半期比1億円悪化）

売上減少により限界利益は減少したが、工場操業度上昇の影響により営業利益は1億円の悪化にとどまる

#### ■MPセグメント

売上高：117億円（第2四半期比6億円減少）

##### ・印刷関連機器（以下MT）部門

売上高：101億円（第2四半期比3億円減少）

PODは増加したが、CTPが国内外で減少

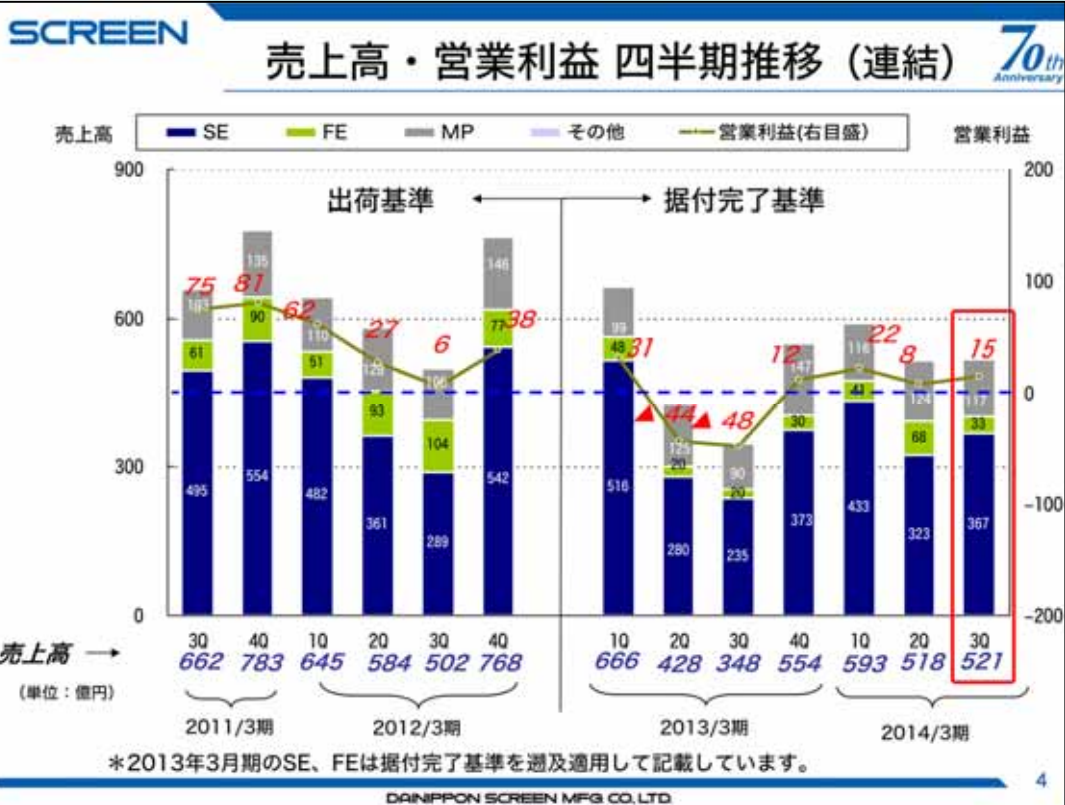
##### ・プリント基板関連機器（以下PE）部門

売上高：16億円（第2四半期比3億円減少）

直接描画装置「Ledia 5」が減少

営業利益：4億円（第2四半期比1億円減少）

売上減少による限界利益は減少したが、工場操業度上昇の影響により営業利益は1億円の減少にとどまる

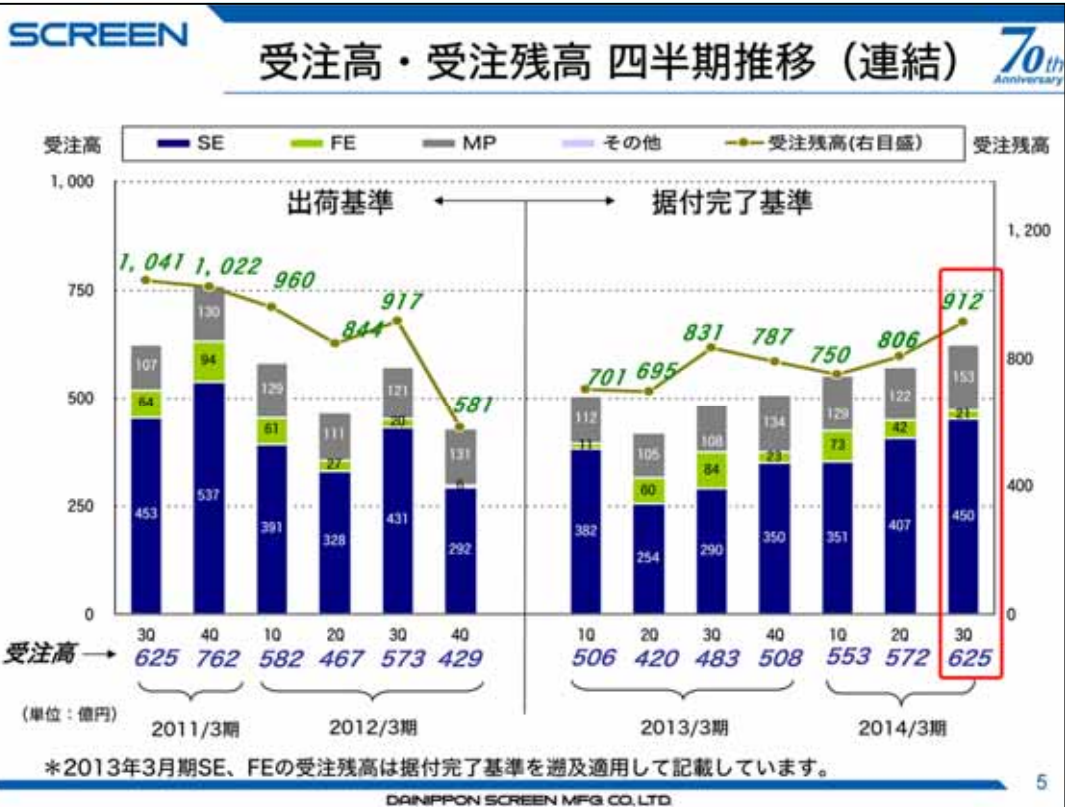


売上高と営業利益の四半期推移グラフ

第3四半期において、

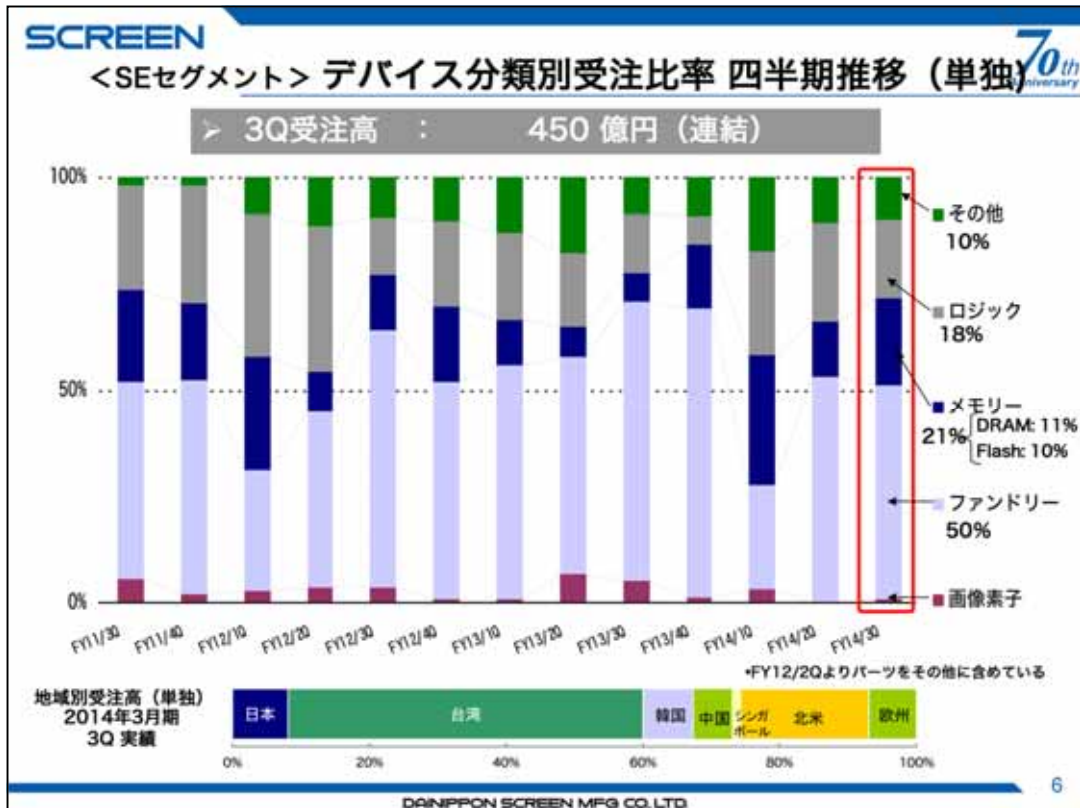
- 売上高：第2四半期に比べて2億円増加、521億円  
FE、MPは減少したが、SEが大幅増加
- 営業利益面：第2四半期に比べて7億円増加し、15億円  
主に売上の増加による





セグメント別受注高・受注残高の四半期推移グラフ

- 第3四半期の全社受注高：  
625億円（第2四半期比53億円増加）
- SEセグメント：  
11月の決算発表時は、第2四半期実績（407億円）と同水準と予想したが、期中でファンドリーやメモリー受注が増加し、450億円となった
- FEセグメント：  
中国向けの中小型の受注のみで、21億円にとどまった  
想定していた中国TV用投資分は第4四半期受注計上の見通しとなった
- MPセグメント：  
MT部門での海外の受注が増加したのに加え、PE部門の増加により、第2四半期と比べ30億円増加し、153億円となった
- 全社第3四半期末受注残高：  
912億円となり、第2四半期末から106億円増加



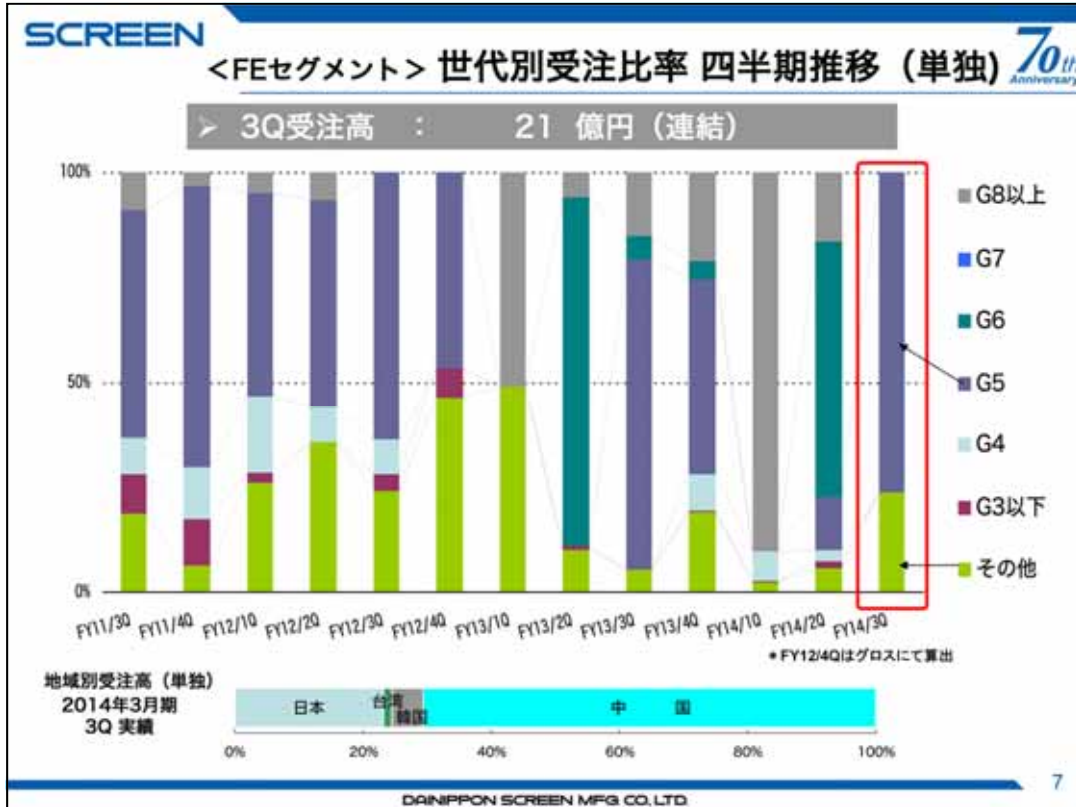
## SEセグメントにおけるデバイス別受注比率

### ■第3四半期実績

- ・ファンドリーは、台湾メーカーの先端微細化量産投資が大幅に増加全体の50%を占める
- ・ロジックメーカーの動きは、パソコン需要の減少により先行きは不透明であるが、先端微細化投資は継続
- ・メモリーは、DRAM向けが増加

### ■第4四半期見通し

- ・ファンドリー向け投資が堅調に推移、メモリー投資も増加が見込まれることから、第3四半期と同水準が継続すると予想



### FEセグメントのガラス基板サイズ別受注

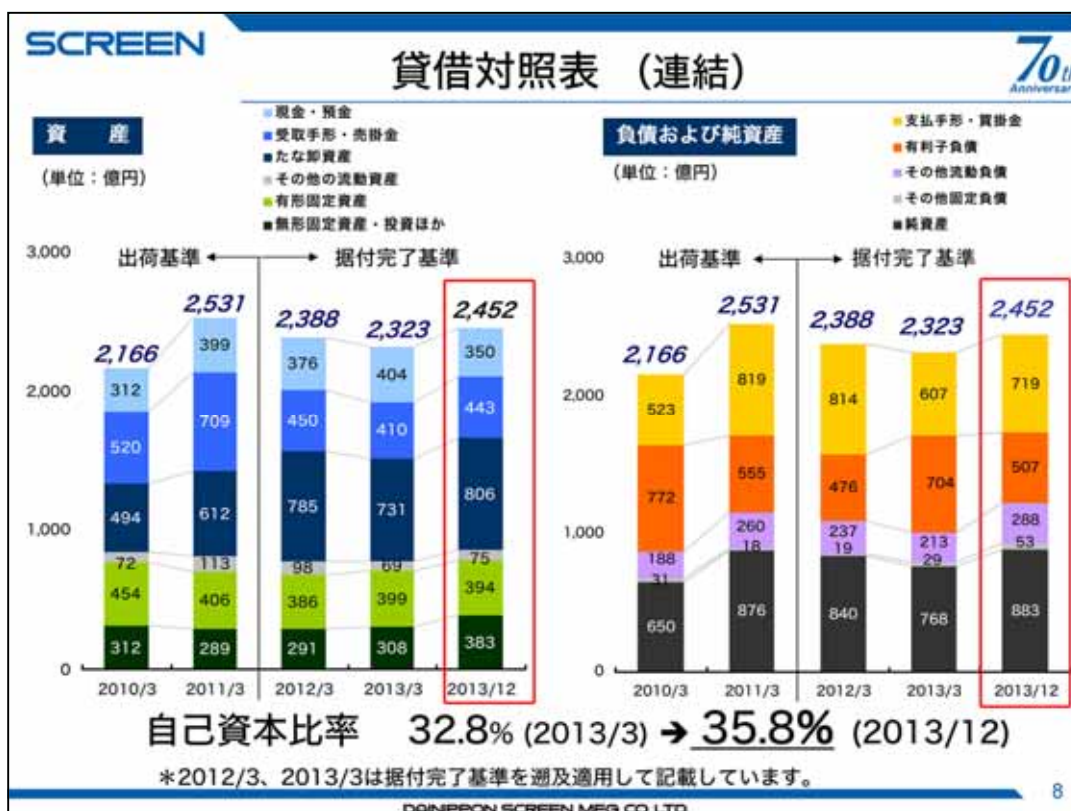
#### ■第3四半期実績：

中国向け中小型用装置を受注、その他は膜厚計など

#### ■第4四半期見通し：

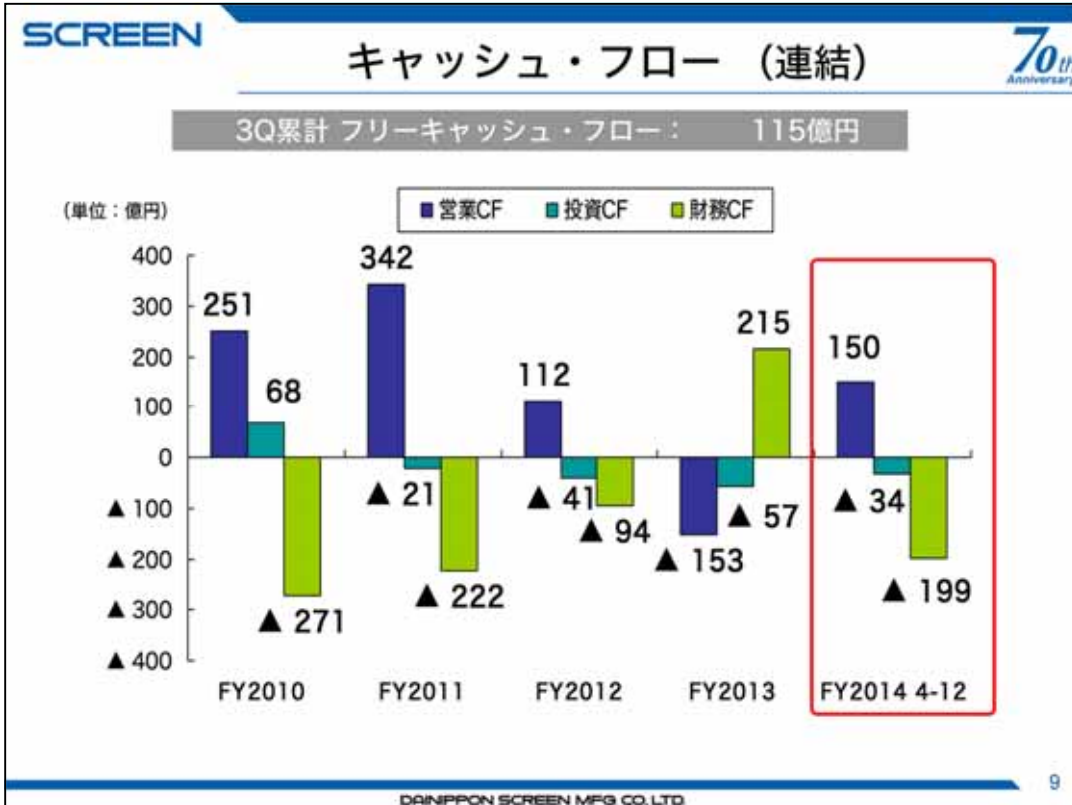
第3四半期に受注を想定していた中国TV用投資案件に加え、中国での他の複数商談を獲得できる見通しから、大幅に増加する見通し





## 2013年12月末 貸借対照表

- 資産合計：2,452億円（前期末比128億円増加）  
受取手形及び売掛金、たな卸資産、投資有価証券などが増加
- 負債合計：1,569億円（前期末比14億円増加）  
支払手形及び買掛金が増加  
社債を発行した一方、借入金を返済し、有利子負債は大幅に減少  
（前期末比197億円減少）
- 純資産合計：883億円（前期末比114億円増加）  
四半期純利益計上による利益剰余金の増加、保有株式の時価上昇および円安の影響により、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定がそれぞれ増加
- 第3四半期末の自己資本比率：35.8%（前期末比3.0ポイント上昇）



### キャッシュ・フロー

#### ■営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益、減価償却費、仕入債務の増加などの収入項目が、たな卸資産の増加、売上債権の増加などの支出項目を上回り、150億円の収入（前年同期は197億円の支出）

#### ■投資活動によるキャッシュ・フロー

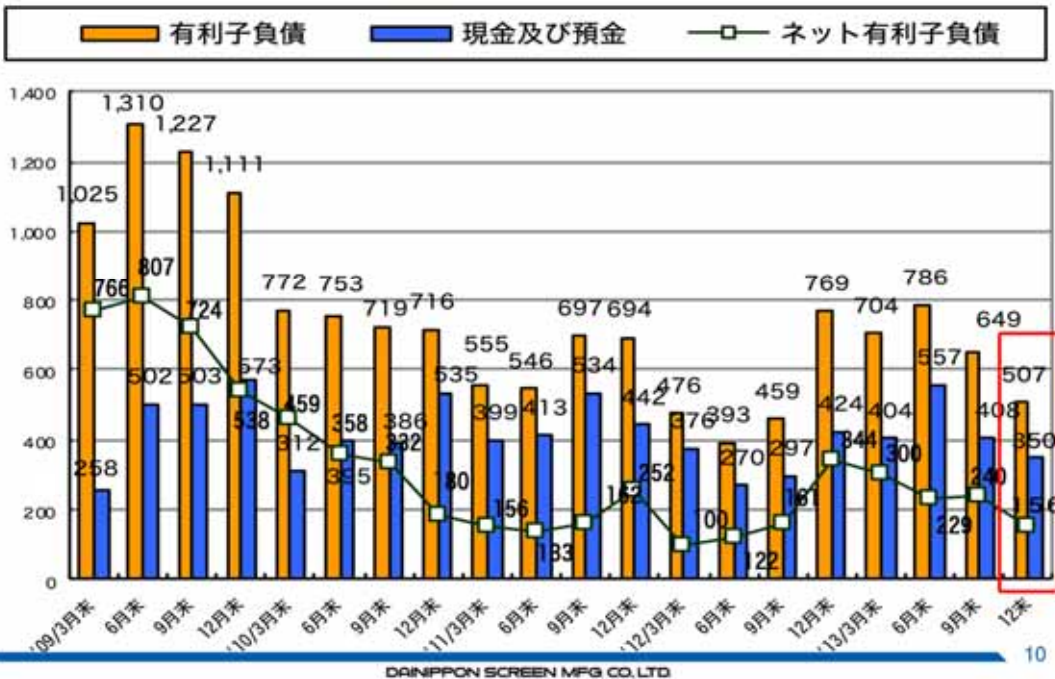
研究開発設備等の有形固定資産を取得したことなどにより、34億円の支出（前年同期は43億円の支出）

#### ■財務活動によるキャッシュ・フロー

社債の発行による資金調達を行ったが、借入金を返済したことなどにより、199億円の支出（前年同期は280億円の収入）

#### ■当四半期末における現金及び現金同等物残高：322億円

(単位：億円)



## 有利子負債の推移

- 第3四半期末有利子負債：507億円
- 有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債：156億円  
2013年3月末に比べ143億円減少
- 2014年3月末の純有利子負債はさらなる減少を見込む

事業状況

## SE

## 3Qの状況

- ・ファンドリーがけん引、売上は2Q比増加
- ・コーターデベロッパーの売上増加、SOKUDO社の業績は改善
- ・四半期の営業利益率は5%台に回復
- ・受注は、ファンドリーに加え、メモリーが増加し、想定を上回る



\*FY13は据付完了基準に遡及適用して記載

## 4Q以降の見通し

- ・4Q売上は、ファンドリー、ロジックがけん引し、3Q比増加を予想
- ・4Q受注では、メモリーの増加により、高水準での推移を見込む
- ・車載用半導体の伸長に合わせ、「フロンティアプロジェクト\*」にも注力

\*フロンティアプロジェクト：当社にとって、新領域を開拓する装置群を指し、特にパワー半導体、MEMSなどのグリーンデバイスをターゲットとした当社商品群の開発、販売活動

12

## SE事業の状況

## 第3四半期：

- 第3四半期売上：台湾ファンドリーが大幅増加し、第2四半期より44億円増加し、367億円
- 製品別売上では、第2四半期に比べコーターデベロッパーが大幅増加  
これにより、SOKUDO社の業績は大幅改善
- 第3四半期（3ヵ月）営業利益率は5%台に回復
- 受注はファンドリーに加え、メモリーも増加  
2013年11月の想定を上回る

## 第4四半期以降：

- 売上は大幅に増加予想、それに伴い営業利益も大幅改善
- 受注も、ファンドリーが堅調継続、メモリーは増加予想
- 活発な先端への投資案件を確実に受注するとともに、市場成長が期待される

車載用半導体に対して、パワー半導体などのグリーンデバイスをターゲットとする「フロンティアプロジェクト」にも注力  
ウエハー外観検査装置などは成果が出ており、今後も継続させる

## FE

## 3Qの状況

- ・売上は減少したが、おおむね想定通り
- ・売上水準が低いため、営業赤字継続
- ・中国での大型商談の受注計上時期は4Qになるも、受注獲得を見込む

## 4Q以降の見通し

- ・4Q売上は回復、収益も改善を予想
- ・中国での複数の大型商談進行中。4Q受注は大幅回復を見込む



\*FY13は据付完了基準に遡及適用して記載

## FE事業の状況

## 第3四半期：

- 第3四半期の売上：中国向けのTV用および中小型パネル用投資はおおむね想定通り
- 第3四半期の利益：売上減少による限界利益の減少を固定費減少や工場操業度の上昇影響などにより、一部オフセット
- 第3四半期の受注：中国向け中小型サイズの案件を受注  
中国の大型案件の計上時期は第4四半期を見込む

## 第4四半期以降：

- 第4四半期は、売上増加により収益回復を見込む
- 複数の中国案件の商談が進行中。第3四半期に想定していた案件も含め、第4四半期の受注は大幅増加を予想  
2014年3月末の受注残高を積み増し、来期業績の安定化を図る



## MP

## 3Qの状況

- ・印刷関連機器の売上は、国内が減少するも、北米が堅調  
PODが海外で増加、消耗品売上も堅調
- ・プリント基板関連機器は、直接描画装置が韓国で好調継続



## 4Q以降の見通し

- ・POD：ラベルプリンターの日米欧でのデモ環境整備、代理店設定など販売体制を強化
- ・CTP：新興国向けにラインナップを充実、中国でのシェア拡大を狙う  
先進国での更新需要を着実に獲得
- ・直接描画装置：韓国、日本に加え、台湾、中国へも注力

## MP事業の状況

## ■第3四半期（第2四半期比較）：

## &lt;印刷関連機器(以下MT)部門&gt;

売上は第2四半期比3億円減少し、101億円  
地域別では、北米が増加したが、国内、アジアが減少  
装置別では、PODが増加したが、CTPが減少

## &lt;プリント基板関連機器(以下PE)部門&gt;

売上は第2四半期比3億円減少  
韓国向けは堅調に推移するも、国内で減少

## ■第4四半期以降：

## &lt;MT部門&gt;

POD：今後成長が期待できるラベル用プリンターを上市

日米欧において、後加工装置を含めデモンストレーション  
できる環境を整備

欧州においてラベル業界に強い代理店を設定し、販売体制強化

CTP：競争が激しい新興国においては、価格競争力のある装置を投入  
日本、米国などの先進国では、更新需要を確実に取り込む

## &lt;PE部門&gt;

直接描画装置について、先行している韓国、日本以外に、  
台湾、中国への拡販に注力

## 今後の取り組み

## 経営課題の進捗状況

## ■収益構造改革

- ・変動費率の改善進行中
- ・SE：コーターデベロッパ事業収益改善進行中
- ・FE：収益改善、来期に向け受注残高増加を見込む
- ・MP：POD装置売上拡大と消耗品ビジネス増加
- ・新規分野：ライフサイエンス事業の緒に就く

## ■財務体質強化

- ・自己資本比率：前期末32.8% →12月末35.8%
- ・純有利子負債：前期末300億円 →12月末156億円

継続・強化

## 今後の重点方針

- 収益構造改革の完遂
- 新規分野の早期事業化

持続的  
成長へ

## ■収益構造改革の進捗状況

- ・全社を挙げて変動費率削減に取り組んでいる  
特に影響力あるSEは、変動費率は、前期実績比3ポイント削減を現在見込んでいる
- ・SEのコーターデベロッパ事業の収益に関しては第3四半期に大幅に改善
- ・前期に営業損失であったFEは、売上拡大により収益改善が進んでいる
- ・MPは、CTPからPODへ製品転換を進めており、PODの売上が拡大これに伴いインクの消耗品ビジネスが拡大しており、業績の安定化に寄与している
- ・新規事業のひとつとして、2013年7月に高速3D細胞スキャナーの販売を開始。ライフサイエンス分野への第1歩を踏み出した

収益構造改革以外の経営課題として

## ■財務体質強化にも注力

- ・純有利子負債の削減、自己資本比率の改善が進んでいる

今後も引き続きこれらの取り組みを継続・強化し、  
収益構造改革の完遂、新規事業分野の早期事業化を重点方針として  
持続的成長ができる企業体質の構築を目指す

2014年3月期  
連結業績予想

4Q想定為替レート： 1米ドル= 100円、 1ユーロ= 130円

(単位：億円)

	2013年 3月期	2014年3月期				
	通期実績 (据付完了)	上期実績	下期予想 (11/5)	通期予想 (11/5)	下期予想 (2/4)	通期予想 (2/4)
売上高	1,997	1,111	1,158	2,270	1,198	2,310
SE	1,406	756	803	1,560	838	1,595
FE	120	109	95	205	90	200
MP	463	241	253	495	263	505
印刷関連機器 (MT)	401	205	218	424	224	430
プリント基板関連機器(PE)	61	35	35	71	39	75
その他(外部売上のみ)	7	3	6	10	6	10
営業利益	▲ 48	30	47	78	59	90
SE	▲ 37	28	-	-	-	-
FE	▲ 8	0	-	-	-	-
MP	14	10	-	-	-	-
その他および調整額	▲ 17	▲ 8	-	-	-	-
経常利益	▲ 50	26	43	70	55	82
当期純利益	▲ 113	15	35	51	44	61

2014年3月期 年間配当金予想： 1株当たり3円 (期末配当金)・・・変更なし

18

DANIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

## 2014年3月期業績予想

これらの状況を踏まえ、

## ■2013年11月5日発表の通期業績予想から

売上に関しては40億円増

(SE：+35億円、FE：▲5億円、MP：+10億円)

営業利益に関しては12億円増

## ■配当金に関しては、1株当たり3円は変更なし

**SCREEN**